

学校だより



令和元年 6月 28日

横浜市立二谷小学校
校長 石川 秀子

「夏の自由課題」

副校長 秀徳 能尚

ニチニチソウ、ペチュニア、インパチェンス、サルビア、ポーチュラカ、アガパンサス……

夏の草花は彩り鮮やかで、暑さで疲れ切った私たちの目を楽しませてくれます。こんな草花を見て思いつかれるのが、現在高校3年生になる私の娘が小学校1年生の時の「夏休みの自由研究」です。

今までは課題を出す側だったのが、初めて課題を出される側になり、どんなことをやればよいのかと親として頭を悩ませたことを覚えています。本来ならば、子どもの課題なので親が考えることではないのですが、考えるきっかけを作ったり、促したりするくらいはしようと思い、何が好きで今どんなことに興味があるのか、娘がうんざりするくらい何度も聞いていました。

ある日、学童からの帰り道で、道路脇に咲いていたゼニアオイを見つけました。空に向かって真っ直ぐ伸びるゼニアオイの草丈に驚いている娘を見て、植物や花にもっと関わらせてみようと考えました。

それから数日かけて娘と一緒に学区を歩き、たくさんの草花を見ました。自由研究としては、近所の公園や置いてあるプランターなどに咲いている花を写真に撮って、草花図鑑を作ることになりました。写真には花の名前や特徴などを添えて書くことにしたのですが、娘は実際の図鑑やネットなどから調べようとは一切せず、見た目や手触り、形や大きさ、香りなど、五感を働かせて感じ取ったことや想像したこと、さらにはそこから考えた物語などを自由気ままに書いていました。親の私は必死になって花の名前を調べていたのですが、結局、花の名前すらも娘が勝手に命名したことで、実にメルヘンチックでファンタジックな草花図鑑に仕上がってしまうことになりました。

一方、私自身が小学生の頃はというと、研究よりも工作に夢中でした。5年生の時には、誰よりも大きなものを作って友達を驚かせたいと思い、自分の背丈よりも大きな郵便受けを作ったのを覚えています。郵便受けと言っても、鳥の巣箱のような形なのですが、角材などの廃材やベニヤ板を使って組み立て、赤いペンキで全面を塗って、それっぽく仕上げていました。一生懸命作ったので、学校に持って行く前はみんなに早く見せたくてわくわくしていたのですが、片道20分程度の道のりを重い郵便受けを担いで登校しているうちに、どうしてもっと小さなものを作らなかつたのだろうと後悔したことも、今となってはいい思い出です。



7月後半から長い休みに入ります。子どもたちにとっては、まとまった時間がとりやすい時期になります。この時期だからこそできることや、やっつけて、見ていてわくわくするようなことに、ぜひ取り組んでほしいと思います。